中二病とはなにか～若者の心理を考える～

１３００４G 小西由華

目次

はじめに
１、特徴による区分
２、心理学的分析
３、イニシエーションとしてのはたらき
４、時代にともなう変化
５、中二病とは
おわりに

参考文献一覧

岩宮恵子「フツーの子の思春期～心理療法の現場から～」岩波書店、２００９年
岩宮恵子「思春期とイニシエーション」岩波書店、２０００年
河合隼雄「講座　心理療法＜１＞心理療法とイニシエーション」岩波書店、２０００年
塞神雹夜「中二病取扱説明書」２００８年、新紀元社
塞神雹夜「中二病狂詩曲」２００９年、新紀元社

はじめに

「中二病」という言葉を一度は聞いたことがあるだろう。もともとは伊集院光のラジオコーナー「かかったかな？と思ったら中二病（～９９）」から生まれた言葉である。当時は「中学二年生くらいの年代にありがちなこと」という意味合いで、やたらバンドを組みたがる、社会の勉強をある程度して歴史に詳しくなると「アメリカって汚いよな」と急に言い出す、コーヒーに砂糖を入れることが恥ずかしく思えてくるなどの自虐的な投稿が寄せられた。

これらのように、思春期の若者は一般に、後々振り返ると赤面してしまうような言動をとってしまいがちである。思春期特有の現象である。そのような現象は昔から存在し、異常なことではない。しかし、「中二病」という言葉が浸透し、ネットスラングとしても機能するようになるにつれて、若者の間でこうした言動が以前より侮蔑の目で見られるようになった。そのため周囲から浮いてしまい、生きにくくなってしまっている者も多いという。

「中二病」の心理学的分析などを通して、「中二病」だといわれる人、また、他人を「中二病」だと嘲笑する人などを含む、現代に生きる若者の心理に迫ることが本論の目的である。